

実践例「学校・学級経営の深化・充実」

「課題3 地域に根ざし、家庭や地域と連携した体験活動を通して、豊かな心を育む教育活動の創造・推進」

I 学校名 羽幌町立天売小中学校

II 学校の概要

多くの海鳥が生息する天売島、羽幌町の小さな島で、羽幌港からの距離は24km、島の周囲は12km、人口は250人弱の島です。本校は、平成17年に小中併置校となり、現在小学生6名、中学生5名の極小規模の学校です。子どもの数は少なくなりましたが、見渡す限りキラキラ輝く大海原、海鳥たちが羽ばたくまぶしく広い青空、四季折々の美しい大自然の中で子どもたちは毎日元気に学んでいます。

地域には2011年に島の将来に不安を抱いた青年たちが島おこしに取り組むために立ち上げた「天売島おらが島活性化会議」という組織があり、子どもたちに豊かな体験をさせるべく様々な活動に協力をいただいています。

III 実践事例

1 島民大運動会

子どもたちの人数が少なくなっていく中で、運動会は島民運動会となり小中だけではなく、ちびっ子ランド（小学校入学前の幼児）、高校生、島民が参加しての運動会となっています。運動会前に行われる2回のグラウンドの草刈りでは、島民全員に情報が流れるタブレットを使って参加を呼びかけ、PTAを含め多くの島民の協力により、毎回すばらしい環境が整えられています。島民種目は、保護者や地域の方々も子どもたちと一緒に笑顔いっぱいグラウンド中が温かな雰囲気になるものばかりです。どの種目でも、会場にいるみんなが、声援を送り合い、互いの健闘を認め合い、子どもたちの責任感や協働性、最後までやり遂げる力などを身に付ける場となっています。



2 天売クリーン作戦

日常적으로世話になっている地域に対し、感謝の気持ちをもって奉仕活動に参加する態度を身に付けることを目的に、4月中旬の土曜日、フェリーの船着き場から島のメイン道路沿い、学校周辺までを4つの班に分かれて1時間30分の時間を取って、ごみ拾いを行っています。これは、天売高校、天売観光協会との合同事業として行われ、高校生が班長を務め小中学生が副班長を務めることでリーダーシップの育成やコミュニケーション能力の伸長も図っています。

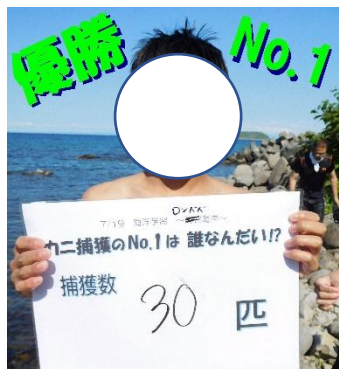
毎年集まるごみの量は少なくなっているとのことですが、今年は40Lのゴミ袋に8袋ぐらいのごみが集まりました。



4月末から海鳥の観察を目的に観光客がたくさん訪れます。美しくきれいな島を守り続ける活動を行っていくことは、子どもたちの情操教育に大きな役割を果たしています。

3 海洋学習

天売には、水泳学習をするプール施設がありません。そこで、「おらが島活性化会議」の全面的な支援・協力のもと、ロンババ浜での水泳体験とカヌー体験を行っています。浜では泳ぎの体験も行っていますが、カニ取り競争も行われています。カヌーは一人用と二人用があり、子どもたちの希望によりどちらに乗るか決めます。二人乗りでは、指導者が一緒に乗って漕ぎ方などを指導しています。



4 スキー学習

スキー学習は、学校の裏の山で行っています。（島にスキー場はありません）実施に向けて10月には、草が生い茂っている山肌の草刈りをPTAや地域の協力を得て、スキーを滑走できる環境に整備していただいています。また、授業前には、ゲレンデとなる斜面をスノーモービルを使って、ならしてもらうなど、様々な協力を得ながら実施しています。



5 宿泊研修、修学旅行での地域PR活動

中学校の宿泊研修や修学旅行は、羽幌中、焼尻中との合同での実施となっています。総合的な学習のカリキュラムでは、地域学習として中1で「焼尻と天売を比較しよう」、中2で「他市町村の町づくり（宿泊研修）」、中3で「他市町村のまちづくりと上級学校訪問（修学旅行）」という内容で実施しています。令和6年度の中2の宿泊研修では「羽幌町PRプロジェクト」の集大成として、天売をもっとPRするためにはどうすればよいかを考え、深川道の駅「ライスランドふかがわ」でアンケートを実施したり、天売島で制作される海洋プラスチック素材で海鳥などをかたどったハンドメイドアクセサリーをPR販売したりしました。活動を通して、天売島に対する認知度が低いことから、「もっとPRをして認知度を高めていけば、より活性化していくのではないか」という反省をしていました。

令和7年度実施の修学旅行では、地元の商店の協力を得て、天売の特産品を札幌の地下街で販売することになっています。



6 葛西臨海水族園の移動水族館

葛西臨海水族園では開園当初から海鳥を飼育し、その魅力や現状を伝える取組や生息域外保全を行っていることもあり、2018年に羽幌町とパートナー協定が結ばれました。

その関係もあり、おらが島活性化会議代表の方から島に来ていた葛西水族園の方を紹介され、水族園の方から「何か天売の子どもたちのためにできないか」という話があり、



本来であれば東京周辺にしか実施していない移動水族園を島にもって来てもらうことができました。この事業は小中だけではなく、島民全員に呼びかけられ、暖かい海に住むカラフルな魚を見たり、水族園についての説明や仕事内容などについて聞いたりすることができました。

今後もオンラインでの学習やキャリア教育の一環としての水族園に関係する職業につ

いての話を聞くなどの交流を続けていくことになっています。



7 北海学園大学生との交流

毎年北海学園大学の学生が「天売島にぎわいプロジェクト」と題し、学校の体育館を会場として、天売島の賑わい創出に貢献するためレクリエーションイベントを実施しています（日曜日開催）。小中生はもとより高校生や島民も集まって大学生が企画した宝探しやジェスチャーゲーム、子どもたちのやりたいスポーツなどを行い、交流を楽しんでいます。

大学生には、6月実施の郷土の祭典への神輿の担ぎ手としての参加や7、8月に1日ずつ船着き場での飲食店の開業など、地域の活性化に向けて協力をいただいています。



IV 最後に

子どもたちの人数が少なくなり、学校が単独で行えることは少なくなってきました。しかし、地域の方々の子どもたちに豊かな体験をさせてあげたいという想いにより、様々な活動を実施できている状況です。地域と目指す子ども像の共有を進め、子どもたちには、様々な人との関わりを通して、コミュニケーション能力を伸ばしたり、島のよさに気付かせ地域の未来について考えさせたりしていきたいと考えています。